

令和4年4月30日

南の風 For Junior90

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

89号の続きです。

3番は2番のダウンスクリーン(スクリーンフォースクリナー)を利用してハイポストに上がる。シュートが打てれば打つ。3番がシュートできなければ、右のガード位置に上がり5番からパスを受ける。その瞬間、ゴール下に飛び込んだ4番が、左ウイングにいる1番にバックスクリーンをかける。3番がゴール下に飛び込んだ1番にパスできればショット。だめならば、5番が4番のDefにダウンスクリーン(スクリーンフォースクリナー)にいく。4番はそれを利用してハイポストに上がる。

このように左右対称に、連続してパスとスクリーンの組み合わせで攻めます。

もし、ディフェンスがスイッチで対応してきたら、スクリナーにパスを入れます。例を挙げます。

最初のアライメントからです。1番が2番にパスして、5番が3番のDefにバックスクリーンしたときに、スイッチ(5番Defが3番に付き、3番のDefが5番に付く)したら、5番にパスを入れます。一瞬5番が空く確率が高くなるのです。(改めて図解してみてください)

また5番のバックスクリーンの直後に、1番が5番のDefにダウンスクリーン(スクリーンフォースクリナー)をかけたときに、スイッチして来れば1番にパスが入りやすくなります。

もう一つ付け加えます。最初の1番から2番へのパスが強烈にディナイされたとします。その場合は、4番が2番のいた後ろのスペースに、パスミートしてボールを受けます。その瞬間、2番はバックドアカットでペイントに飛び込みます。

ボールが入らなければ、2番は同じサイドに開いて逆側でフレックスオフェンスを続行します。

次にフレックスオフェンスの弱点を書きます。

①ゾーンディフェンスには使えないオフェンスです。

ゾーンは人を守るというより、地域を守るのでスクリーンの効果が期待できないため、相手チームがゾーンの場合は、他の攻め方を準備する必要があります。(U15はマンツーマンなので十分効果のあるオフェンスになります)

②エースがいるチームにはなじまないオフェンスです。

1試合に得点を量産するスター選手がいるチームには向かないオフェンスです。組織的にパスとスクリーンでズレを作るオフェンスなので、決まった選手が得点するのではなく、空いた選手が得点することになります。

③プレーの中で、パスするところを探してしまうことが多いオフェンスになりがちです。

パスとスクリーンが主体なので、気を付けないと形にこだわってしまい、力強い攻めができなくなる恐れがあります。形を追いかけてしまわず、「ボールを持ったら、まずシュートを意識する」、「1on1で攻めることを忘れず、前が空いたらドライブ」を徹底しなければいけません。

フレックスオフェンスは、デメリットもありますが、それを上回るだけの良さを備えたオフェンスです。U15カテゴリーで、十分効果を発揮できるオフェンスと言えます。挑戦する価値があります。